

障がい者アクティビティ&トレーニングセンター

レポート：加藤 李麻

★概要

デンマークでは、障がいの機能の程度別に、三つに雇用の範囲が分けられています。

- *一つ目にフレックスワークといい、機能がわりと高い方たちの雇用形態があります。
- *二つ目に、機能が中程度の方が就く、補助金に加えてお給料が出るお仕事があります。この二つは一般企業で働いている方の雇用形態ですが、
- *三つ目に、機能低下が進んでいる方の、授産作業としてのお仕事があります。私たちが見学させていただいたところは、三つ目の雇用形態のような、機能低下がみられる方の、作業所としての役割を担っているデイセンターでした。

このデイセンターには、身体障がいや発達障がいをもつ方など、様々な障がいをもつ方が通われており、障がい者年金に加えて、働いたぶんのお給料が出る仕組みになっています。

★作業内容

デイセンターでの作業内容としては、施設全体の食事を作っているキッチンでのお仕事、キッチンで使う野菜を育てている園芸のお仕事、ガラス細工・陶芸・裁縫などをする、ワークショップでのお仕事、施設の掃除をするお仕事、一つのグループが他のグループに指導をしたりする、理学療法的なお仕事があります。作業内容に関しては、利用者一人一人の興味関心に合わせ、選んでいるとのことでした。

また、作業の他にも、フィットネスやダンスなどを行う、クラブ活動も大切にしているとのことでした。



★自分自身が作ることに意義がある

利用者の方の行う作業に関して、デイセンターのスタッフはどの程度援助しているのか、という質問に対し、キッチンなどの衛生的な管理をきっちりしないといけない、食事を作らなければいけないという義務のある仕事に関しては、スタッフが管理しているが、ワークショップ等での作業においては、できない部分の支援はするが、全てスタッフが支援することはない、という返答がありました。それは、注文を受けて製品を作るということをしていないため、ノルマもなく、利用者自身が作ることに意義があるという考えがあるからだそうです。利用者の方が作った作品は、外部で販売することはなく、施設でバザー等を行うときに出しているとのことでした。

★センター内見学

センター内の見学は、二つのグループに分かれて行いましたが、私たちのグループは、

キッチン・ワークショップ・園芸・自閉症の方々が作業をしている様子等を見学させていただきました。

キッチンには、庭で育てた採れたての野菜を使った様々な料理が並んでいました。とても広々としたキッチンで、太陽の光が差し込むとても明るい空間で、利用者の方は料理をしたり、洗い物をしたりと、自分の仕事に責任をもって黙々と作業に取り組んでいました。

絵を描いたり、はがきを作っているグループのお部屋に行った際、利用者の方々が作った、ポーチやアクセサリ、カードやお部屋に飾る小物などの素敵な作品が並んでおり、スタッフからの、「もしよかったらお土産にどうぞ」との声で、私たちのお買いものタイムが始まりました。手作りとは思えないほどの完成度の高さ、とても可愛い素敵なデザイン作品ばかりで、私たちが買い物に夢中になっていると、側にいた利用者の方が、自分たちが作ったものよ、というように、誇らしげに、とても嬉しそうに、笑顔で私たちの様子を見ていました。

自閉症の方が作業をしているお部屋では、自閉症の方々にとって、一日の流れが決まっていることが大事、ということで、壁に一人一人の利用者の方の一日の流れがイラストで示されており、今何をやっているのか、その次は何をするのか、一目でわかるように工夫されていました。利用者の方々は、その流れに合わせて、自分のペースで、作業に参加されていました。

★感想

デイセンターを見学させていただき、感じたことは、利用者の方の笑顔が素敵な部分は、日本と同じだな、ということです。目が合うと、ニコッと笑う姿、カメラを向けると、満面の笑みを向けてくれる姿、挨拶をすると、笑顔で挨拶を返してくれる姿、と、利用者の方の笑顔がすごく素敵だったことが強く印

象に残っています。そして何より、介護現場で働く身として感じたことは、毎日が慌ただしく、常にスタッフが忙しそうにしている、心に余裕のない日本の施設と比べて、施設で流れる時間がとてもゆったりしていて、スタッフが利用者の方々とじっくり向き合いながら、各々が自分のペースで自由に、生き生きと過ごしている様子が、なぜこんなに日本と違うのか、と、少し衝撃を受けてしまいました。

また、施設内で、重度の重複障害がある方の部屋を見学していた際に、リフトが付いている場所が多いな、と感じました。トイレ以外にも、理学療法を受けるベッドに移り際に使うリフト、ソファに移る際に使うリフト、と、それぞれの部屋にリフトが設置されていました。デンマークでは介護現場において、15キロ以上は持ち上げてはいけないという重量制限があり、介護者の腰痛予防にもなるとのことでしたが、日本ではまだまだリフトのような補助器具が浸透しておらず、腰痛をもちながら介護をしていたり、力任せに介護をしている現状があるため、今後ますます介護の需要が高まる日本においても、もっと補助器具を活用し、利用者にも介護者にとっても負担の少ない介護をしていく必要があると感じました。

